

「かんぽの郷庄原」に関する意見調査票

日本郵政(株)は、宿泊事業の検討対象施設について、譲渡・閉館等の配置見直しを行っています。こうしたなか、令和元年11月に日本郵政(株)より本市へ「かんぽの郷庄原」の譲渡について打診がありました。

「かんぽの郷庄原」は、平成13(2001)年4月の開業以降、広く市民の皆さんに利用されている施設であり、その存否が市民生活や地域経済等に大きな影響を及ぼすと考えられます。

については、市民の皆さんのご意見を参考とし、市として方針決定を行うため、以下の調査票によりご意見をいただきますよう、ご協力をお願いいたします。

あなた(記入者)ご自身についてお聞きします。

○あなたの年齢を教えてください。(記入例:30代) ⇒ (60) 代

○あなたのお住いの地域を教えてください。

(記入例:庄原地域 東城地域 市外 など) ⇒ (庄原地域)

○昨年(2019年)において、何回程度「かんぽの郷庄原」を利用されましたか。 ⇒ (1) 回程度

「かんぽの郷庄原」の今後のあり方についてご意見をお伺いします。

2020.3.17

●「かんぽの郷庄原」について、今後どうあることが望ましいと思いますか。

- 1 この問題を考えるうえで、ふまえる必要があるのは、かんぽの郷庄原は、郵政省の政策にもとづき、「地元自治体と連携して健康でゆとりある地域社会づくりにも貢献する」ことを目的に建設されたものであり、それを引き継ぐ日本郵政(株)は、資本金3兆5千億円を超える超大企業であり、その社会的責任を果たす責任があるということです。
- 2 かんぽの郷庄原は、「簡易保険福祉事業団」の計画で、宿泊利用者年間3万8千人、日帰り利用者年間3万9千人、25年後で税引後当期利益の累計は1億3千万円の見通しとしてきました(別紙資料・新聞記事を参照ください)。
現在の宿泊利用者年間3万5,664人、日帰り利用者年間8万3,216人は、当初計画と大差ないのであり、日本郵政(株)は、運営にあたってきた、(株)サンヒルズ庄原のこれまでの努力を高く評価すべきです。
- 3 こうした点をふまえるなら、建設からわずか20年で撤退するなどという無責任なことは決して許されることではありません。
- 4 日本郵政(株)は、日本を代表する超大企業であり、体力は十分です。
日本郵政(株)に対し、当初の目的である「地元自治体と連携して健康でゆとりある地域社会づくりにも貢献する」という約束をまもり、(株)サンヒルズ庄原への委託料を現在よりも引き上げながら、ひきつづき営業を継続するよう、求めつづけるべきだと考えます。
- 5 市が、この問題に真剣にとりくみ知恵を発揮することは重要ですが、先に述べたように、第一義的に日本郵政(株)自らが、その社会的責任を果たすべき問題であり、その責任を果たさせるためにこそ、

市民と力をあわせ、全力をつくすべきだと考えます。

- 6 市民の暮らし、福祉、教育を最優先すべき地方自治体が、このように大規模な「事実上のホテル業」に手をだすことは、間違っても、あってはならないと考えます。

2020.3.17

729-6141 庄原市水越町 598 藤木邦明

●その他ご意見等ございましたら、ご自由にご記入ください。

貴重なご意見をいただきありがとうございました。

－問い合わせ先－

〒727-8501 庄原市中本町一丁目10番1号

庄原市 企画振興部 企画課 企画調整係

【電話】0824-73-1128

【FAX】0824-72-3322

【メール】kikaku-chousei@city.shobara.lg.jp

庄原総合レクセンターに関する情報提供

簡易保険福祉事業団

1 この事業に対する考え方や今後の手順

- (1) 簡易保険福祉事業団は、簡易保険福祉事業団法（昭和37年法律第64号）により簡易保険に加入されている方々の健康の増進と福祉の充実を図るため、郵政省から加入者福祉施設の設置と運営をゆだねられています。
- (2) 庄原総合レクリエーション施設は、庄原市が推進する「上野総合公園整備計画」の一環として、簡易保険加入者のための総合的なスポーツ・レクリエーション施設（滞在してスポーツ研修等を受ける利用者のための研修宿泊施設あり）を整備し、地元自治体と連携して健康でゆとりある地域社会づくりにも貢献することを目的に平成4年に設置が決定いたしました。
- (3) それ以降、建設用地の取得、施設の設計、埋蔵文化財調査などを行い、平成10年度に建設予算が認められ、着工するに至りました。
- (4) 今後は、工事完成（平成13年3月予定）前の2～3ヶ月前に開設準備室が現地に設置され、施設オープンの準備を行うこととなります。
なお、施設オープン時期は建物完成後、数ヶ月の準備期間を経てオープンすることとなります。このオープン時期は準備室開設後、準備状況等を勘案して正式に決定します。

2 敷地内の施設配置や建物内部の構造がわかる図面

設計図書以外に建物内部の構造がわかる図面は、作成しておりませんが、現地工事事務所に施設のパース及び模型が置いてありますので、事前取材日をご連絡いただければ、現地工事事務所に連絡いたします。

3 事業計画に関する資料

- (1) 利用客数及び客単価は、周辺市町村の人口及び当団の同種施設の利用状況を参考に推定すると、宿泊利用人数は年間3万8千人、日帰り利用人数は年間3万9千人を見込んでおります。
客単価は一泊二食6,900円程度からで、ご利用人数と繁忙期・閑散期など利用時期、簡易保険への加入の有無により多少異なります。
温泉の日帰り利用ですと一人800円程度となります。

(2) 当該施設の運営は、民間活力利用の立場から業務委託を考えておりま
す。

なお、同種施設等から推定した年間の人件費、維持運営経費の内訳、
雇用予定などは次のとおりです。

◆ 収支見通し（3年目を想定）

【総売上高】

宿泊	422,611千円
日帰り	81,110千円
計	503,721千円

【経費】

原価	134,828千円
人件費	165,912千円
販売管理費	140,781千円
計	441,521千円

【G. O. P】 62,200千円

【減価償却費】 17,897千円

【経営の概要】

- ◇ 経常損益では、開業初年度から全ての年度で利益が発生する見
通し。
- ◇ 短期借入金は、一切発生しない。
- ◇ 税引後当期利益の累計は25年後で1億3千万円の見通し。

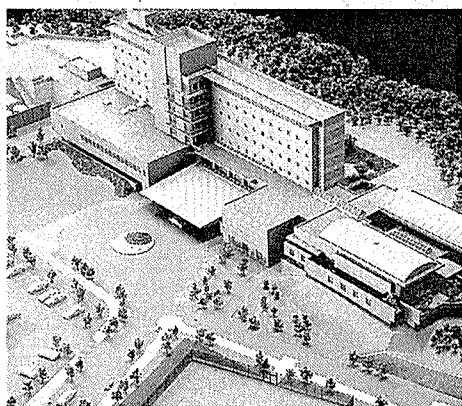
【要員】

正社員	26人
契約社員	25人
アルバイト	10人
計	61人

4 完成予想模型の写真及び完成予想図

上記2に同じ。

来夏オープンの庄原レクセンター



建設中の庄原総合レクリエーションセンターの完成予想模型

簡易保険福祉事業団は、庄原市新庄町に建設する庄原総合レクリエーションセンターについての事業計画を、二日までに明らかにした。年間の利用客は七万七千人で、六十一人の従業員の雇用を見込んでいる。

日帰りは1日平均100人余

年間利用客7万7000人

00、2、3

簡保事業団試算

詳細は 526-11000
平仮名辞典

事業団によると、類似の施設の実績などを参考に、宿泊客が年間三万八千人、日帰り客は三万九千人と推定。年間の総売り上げは宿泊客が約四億二千二百万円、日帰り客が約八千百万円の計約五億三百万円と試算している。

算している。施設の管理運営業務は民間に委託する方針で、経常損益では、開業当初から利益が発生すると見込んでいる。

センターは工事が進んでおり二〇〇一(平成十三)年三月に完成、同年夏ごろ

オープン予定。敷地面積約一五・八五畝、建物は鉄筋七階建て延べ約九千八百平方メートル。テニスコートなどのスポーツ施設や各種の浴室を備えたクアハウスなどがあり、六十二の宿泊室に二百人の宿泊客が収容できる。総事業費は約四十七億五千万円。

庄原市はこれまで、市議会などで「日帰り客一日平均約千人」などと説明してきた。しかし、事業団の試算では百人余りとなり、市が現在進めている、施設周辺の整備計画に影響が出るべく、八谷泰央市長が事業団事業計画などについて聞くことも予想される。市は近隣の担当者と会い、詳しい事案にしている。